

## バックナンバー目次一覧

### | 創刊号(2002年)|

- 郷原佳以……[論文]無気味な類似  
ブランショにおけるイメージ
- 西山達也……[論文]必要なる響き合い  
マルティン・ハイデガー「人間主義書簡」への導入
- 阿部 崇……[論文]フーコーの考古学における「身体」の位置づけについて
- 伊藤 綾……[研究ノート]北極光について  
フランス初期社会主義ユートピア思想の精神的読解
- ガーデナ香子……[研究ノート]フランツ・ファノン論のためのメモランダム  
ファノンの時間、視覚の暴力、続く闘争
- 小森謙一郎……[論文]共鳴の条件  
アルチュセールとデリダ、そしてマルクス
- 國分功一郎……[論文]歓待の原理  
クロソウスキーからフリーエへ
- 安原伸一郎……[論文]収容所文学の場所  
アウシュヴィッツやコロイマの物語にかんする考察
- 森元庸介……[クロニック]想起と作品  
『ペルセポリス』について
- 笠間直穂子……[クロニック]笑い止む瞬間  
作家としてのアルフォンス・アレ
- 大原宣久……[クロニック]恋と革命の周辺で  
エリック・ロメール『グレースと公爵』について
- 堀潤之……[論文]断片・機知・イコニー  
ゴダールとドイツ・ロマン主義1
- 熊谷謙介……[論文]「自然は起こる、付け加えるものはない」  
ステファヌ・マラルメの「印象派の画家たちとエドゥアール・マネ」
- 泉美知子……[論文]宗教建築の生とは何か  
ブルーノ・ゼビエの文化遺産保護運動
- 荒原邦博……[研究ノート]1889年のマネ  
『ゲルマンのほう』における万国博覧会
- 陳岡めぐみ……[研究ノート]19世紀の複製エッチングへのアプローチ  
レオン・ゴシェと絵画のためのイメージ戦略
- 大辻都……[論文]アンティルの母をめぐる多元的外部論  
マリズ・コンデ「葉の実とパンの実」「ノー・ウーマン、ノー・クライ」
- 鈴木順子……[論文]ディオニュソスとは誰か  
シモーヌ・ヴェイユによる比較宗教学的考察の試み
- 井上のぞみ……[論文]18世紀後半のフランスにおける女性の身体の表象
- 松沼美穂……[研究ノート]本国と植民地の出逢いの場  
ヴィシー政権の帝国祭典
- 園部裕子……[研究ノート]国民国家・福祉国家の変容  
アフリカ系女性移住者の連帯による問いかけ
- 荒原由紀子……[論文]科学と宗教のはざま  
『ブヴァールとベキュシェ』の地質学探究
- 久保昭博……[論文]ミメシスと虚構  
ケーテ・ハンブルガーとジェラルド・ジュネットによる  
アリストテレス「詩学」の解釈について
- 石橋正孝……[論文]表現行為としての編集  
ピエール＝ジュール・エツェルの場合
- 阿部崇……[クロニック]新たな「音楽」の到来  
サイモン・ラトルとベルリン・フィル

- 神山剛樹……[クロニック]Ronaldoと「ロナウド」  
音変化と借用語表記
- 坂本さやか……[研究ノート]19世紀の視覚文化と文学
- 小野文……[論文]フロイトの読者、バンヴェニスト
- 笠間直穂子……[論文]文学のまえに  
18世紀末から19世紀中盤にかけての文法と教育
- 坂本浩也……[論文]メディアロジー生成のコンテクスト  
(1979-1996年を中心に)

### | 第2号(2003年)|

- 三枝大修……[論文]鏡張りのテキスト空間  
『マルドロールの歌』における二重性の諸相
- 大辻都……[論文]不可能なもの、肥沃なもの  
マリズ・コンデ『マンガローヴ渡り』と植物の人間たち
- 藤田省一……[論文]ブルーノ・ゼビエはバルザックの「細密画」をいかに読んだか  
塗り重ねの下に見出されるもの
- 泉美知子……[研究ノート]19世紀におけるロマネスク建築観  
メリメからヴィオレ＝ル＝デュックへ
- 安藤智子……[研究ノート]アルフォンス・ルグロとプリミティヴ派  
ディジョンへの郷愁
- 宮坂奈由……[研究ノート]カイユボット絵画における都市細部の表現:  
《パリの通り、雨》
- 岸清香……[研究ノート]1990年代の現代美術論争  
「極右」による攻撃?
- 森元庸介……[クロニック]闇を登る  
ダヴィッド・B『癲癩の発作』について
- 横山義志……[論文]朗読の記譜可能性について  
ドラマにおける音楽の排除
- 伊藤綾……[論文]歴史主義と現代性  
ボードレールにおける「折衷主義」と「哲学的芸術」の批判
- 園部裕子……[研究ノート]「語る」ことと社会参加  
女性移住者の潜在能力と団体活動の機能についての試論
- 井上のぞみ……[研究ノート]祖国を棄てた愛国者「ジュネーヴ市民J・J・ルソー」
- 隠岐さや香……[研究ノート]18世紀の科学、技術と国家  
コンドルセの社会数学からみえてくるもの
- 南玲子……[論文]観察の旅と研究者  
フランス民族学の黎明期
- 坂本さやか……[論文]ミシュレの『フランス革命史』におけるファンタスマゴリー  
「九月の虐殺」の記述をめぐって
- 笠間直穂子……[クロニック]「アフリカ」の向こう側へ  
ヤンボ・ウォロゲム『暴力の義務』
- 大原宣久……[研究ノート]ミシェル・レリスとアフリカ人女性  
『幻のアフリカ』から「フルビ」へ
- 佐藤朋子……[研究ノート]「アナセミー」と時間の問題  
ニコラ・アブラハムの初期業績のクロノロジカルな分析
- 大森晋輔……[研究ノート]「神の死」の遊戯  
パタイユを読むクロソウスキー
- 伊藤綾……[クロニック]今さらなぜユートピアか?  
ミゲル・アバンスール『ユートピア  
——トマス・モアからヴァルター・ベンヤミンへ』を読む
- 神山剛樹……[論文]二つの「国語」のはざま  
アルザスの仏語と独語、台湾の日本語と「國語」
- 小野文……[論文]「ことばにおける主体性」を巡る二つの発話行為論  
シャルル・バイイとエミール・バンヴェニスト
- 近江屋志穂……[研究ノート]揺らぐ境界  
アニー・エルノーの日記とフィクション

ガーデナ香子・[研究ノート] wo-manについて

ブラカ・リキテンベルク=エッティンガーを入口に

竹内京子……[研究ノート]聴覚障害者のための手指サイン日仏比較

酒井智宏……[論文]フランス語における3種類のavec NP XP構文

金澤忠信……[論文]哲学的テキストとしてのソシュール

郷原佳以……[論文]プロソポンとしての形象

ブランシヨ『望みの時に』より

[第3号(2004年)]

満島直子……[論文]ディドロの《自然誌展示室》補遺

橋本一徑……[論文]人相書きの科学

アルフォンス・ベルティヨンの「口述ポートレート」

荒原邦博……[研究ノート]画家小説と精神医学

ゾラの『制作』からブルーストの『失われた時を求めて』へ

藤田省一……[研究ノート]墓は至るところに

『失われた時を求めて』に引用されたマラルメのソネについて

郷原佳以……[研究ノート]「マラルメの神話」、あるいは、言語の虚構としての詩

ブランシヨによるマラルメ

荒畑明野……[研究ノート]ルコント・ド・リール「カイン」読解

太陽・眼の形象と非個人性の問題

茨木博文……[論文]フールール・メンラドの彷徨

ムールード・フェラウン『貧者の息子』の語りが孕む問題

工藤晋……[論文]エドゥアール・グリッサン『第四世紀』読解

語り手たちの弁証法

大原宣久……[クロニク]叫びと人間

「フランス・ベイコン 聖と俗」展をめぐって

小泉順也……[研究ノート]シャルル・ブラン『全流派画人伝』と

西洋美術史における「画人伝」の系譜

福間美由紀……[研究ノート]P・シニャック『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象派まで』における新印象派論再考

小澤京子……[論文]テオフィル・ゴージェ、視覚の技術

南玲子……[論文]「これは小説などではない」

『イタリア年代記』三短編に見る、スタンダールの人間研究の行方

松沼美穂……[研究ノート]植民地支配の歴史と現在

「母なる祖国」を守った元フランス軍士への恩賞をめぐって

金山準……[研究ノート]ジョルジュ・ソレルにおける歴史と「ユートピア」

五野井郁夫……[研究ノート]グローバルな社会運動に向けて

「途上国の債務と貧困」に取り組むNGOとアソシアシオン

酒井智宏……[論文]役割関数の構造

コンテキストと役割解釈の可能性

守田貴弘……[論文]非現実性の文法化

千葉雅也……[研究ノート]動きすぎてはいけな

ジル・ドゥルーズと節約

笠間直穂子……[研究ノート]関係の探究

マリー・ンティアイユの文学

森元庸介……[クロニク]惑乱のステップ

『ダンシング』について

澤田哲生……[研究ノート]スポーツを記述する方法の問題

クリスチャン・ブロンベルジェ『フットボールの試合』によせて

森元庸介……[論文]真摯なる検閲

「カファロ事件」について

阿部明日香……[論文]1889年:印象派とパリ万国博覧会をめぐって

美術とその制度に関する試論

[第4号(2006年)]

数森寛子……[論文]水没への反抗

ヴィクトル・ユゴーとその時代における洪水のイメージをめぐって

橋本一徑……[論文]モルグから指紋へ

19世紀末フランスにおける科学捜査法の誕生

大辻都……[論文]名前のない物語は続く

マリーズ・コンテ『移り住む心』

園部裕子……[クロニク]「希望」という名の「勇氣」

センペーヌ・ウスマン『モーラーデ(庇護権)』によせて

郷原佳以……[クロニク]方法のポエティック

ブリュノ・クレマン『方法の物語』に寄せて

荒畑明野……[論文]踊り子のエクリチュール

マラルメの舞踊論

石橋正孝……[論文]カニバリズムの修辞学

ジュール・ヴェルヌ『チャンセラー号』の成立事情、エクリチュール、そしてイデオロギー

安藤智子……[論文]アルフォンス・ルグロ作《エドゥアール・マネの肖像》

絵の中の絵が語るもの

藤田省一……[クロニク]フルバック、あるいは失われた時空間を求めて

2007年第6回ラグビー・ワールドカップのために

竹本研史……[クロニク]掛け声の不協和音

パトリック・ミニオン『サッカーの情念』から見た庶民感情と経営者の論理

治山純子……[論文]フランス語の感情表現の概念化

恋愛に関するメタファー表現の研究

酒井智宏……[論文]個体間の同一性を断定するトートロジー

佐藤朋子……[論文]精神分析の心理学化と「体験されたもの」の閉域

ダニエル・ラガーシュによる二篇のカール・ヤスパース論(1941、1942年)

大森晋輔……[研究ノート]魂はどこに?

クロソウスキーと精神分析

満島直子……[クロニク]身体異常をめぐる思考

アンドリュウ・クラン『崇高な無秩序 デイドロの宇宙における身体的怪物』によせて

坂本さやか……[論文]ファンタスマゴリーと政治的偶像

ミシュレの『19世紀史』におけるナポレオンの表象をめぐって

谷本道昭……[論文]若がえりの泉

バルザックによるラ・フォンテーヌ

横山義志……[論文]虚構と韻律

近代人はいかにして脚韻の正統化に成功し、まさにそのことによって脚韻を失っていったか(1548-1826)

佐原怜……[研究ノート]アルフレッド・ジャリの詩学と総合主義絵画

中田健太郎……[研究ノート]アンドレ・ブルトンにおける自動記述とコラージュ

方法概念の余白について

塚島真実……[論文]「精霊」への序奏、あるいは助走

ランボーにおけるイエスの諸相

関俣賢一……[論文]もういちどラブレールを視る

パンダグリュエリスムと錬金術の図像解釈学のために

森元庸介……[論文]救済と寵絡

マルブランシュにおける説得

大原宣久……[研究ノート]競馬場の文学者

ミシェル・レリス『スポーツ年鑑』をめぐって

澤田哲生……[クロニク]スタッドのある風景

クリスチャン・ブロンベルジェ『バガテル』によせて

茨木博史……[クロニク]ルワンダについていかに書くのか

アブドゥラマン・アリ・ワベリ『鶴鹿刈り』書評

末次圭介……[論文]アルザスにおける「エビュラシオン」

その推進と抑制の要因

藤岡俊博……[論文]「未開」心性と異教

レヴィナスのレヴィ・ブリュール読解

- 園部裕子……〔論文〕「人を助ける」という生き方  
西アフリカ出身女性仲介者のライフストーリー
- 谷本道昭……〔クロニック〕旅と文学  
ジャン＝フィリップ・トゥーサン『フイール』の余白に
- 坂本浩也……〔研究ノート〕表象と言説としての文学  
戦争文化史の観点からブルーートを再読するために
- 荒原邦博……〔研究ノート〕ルーヴル美術館をめぐる想像  
ゾラの『居酒屋』からブルーートの『失われた時を求めて』へ
- 藤田省一……〔論文〕ブルーートと「19世紀」  
作品の「完成」と批評の事後性
- 石川学……〔論文〕書くことをめぐるパラドクス  
ジョルジュ・バタイユと『失われた時を求めて』
- 竹本研史……〔論文〕絶対性の彼方にある個人主義  
サルトル思想における個人の実践と自由との関係

〔第5号(2007年)〕

- 大原宣久……〔論文〕自伝と精神分析  
ミシェル・レリス『フルビ』読解
- 中田健太郎……〔論文〕シュルレアリスムの時間性  
アンドレ・ブルトンとマルセル・デュシャンの言語論
- 佐原怜……〔論文〕砂時計の詩学  
初期アルフレッド・ジャリの思想とプラトンのアイデア論
- 数森寛子……〔クロニック〕記憶と虚構  
ピエール・ブレヴェール『渡し守の家』
- 中田健太郎……〔クロニック〕ミシェル・オスロ『アズールとアスマール』における  
水平運動
- 茨木博史……〔論文〕イデオロギー闘争を超えて  
モハメド・ディアの初期小説について
- 篠原学……〔論文〕「非-参加」から「はじらい」へ  
ミラン・クンデラを読む
- 鶴戸聡……〔論文〕宿命のネジマ  
カテブ・ヤシン論序説
- 尾玉剛士……〔クロニック〕書評『メディアのヴェール イスラム・スカーフ事件  
という誤った論争』
- 茨木博史……〔クロニック〕怒り、そして鎮魂  
アミン・ザウイ『血の文化』書評
- 坂口周輔……〔論文〕何もでもない形象  
マラルメのワーグナー論をめぐって
- 谷本道昭……〔論文〕不純なジャンルのために  
バルザック、コント作家の肖像
- 数森寛子……〔論文〕「蝕む」とは何か  
ヴィクトル・ユゴー『海に働く人々』をめぐって
- 大森晋輔……〔クロニック〕「書く」と「描く」のあいだに  
2006-2007年、ロンドン・ケルン・パリで開かれたクロソウスキー展によせて
- 澤田哲生……〔クロニック〕スタッドのある風景II  
セバスチャン・ルイ『イタリアのウルトラ現象』を読む
- 神山剛樹……〔クロニック〕日常生活の中の音声学
- 坂本さやか……〔論文〕歴史の語りと王権のスペクタクル  
ミシュレの『フランス史』における入市式と聖史劇
- 南玲子……〔論文〕近代的学問としての国民性研究に向けて  
モンテスキュー『法の精神』と後継者たち
- 中村督……〔論文〕フランスにおけるニュース週刊誌の発刊  
『ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール』における「発見」の時代について
- 尾玉剛志……〔研究ノート〕フランスの福祉エリート  
医療制度改革への認知的アプローチ
- 竹本研史……〔クロニック〕リリアン・テュラムの闘い  
人種差別の問題とアイデンティティの問い

- 末次圭介……〔論文〕第二次世界大戦中のアルザス自治主義者の役割  
および自治主義者に対するエプュラシオン
- 竹本研史……〔論文〕ただ祈り続けること  
ジャン＝ポール・サルトルにおける他者からの眼差しと他者への祈り
- 郷原佳以……〔クロニック〕文学、この「ほとんど何でもないもの」  
ドミニク・ラバテ『破れ鍋』によせて
- 森元庸介……〔研究ノート〕思惟の罪  
ラカンによるサドについての覚書
- 鈴木順子……〔研究ノート〕「虚無の信仰」認識を超えて  
S・ヴェイユが読む鈴木大拙
- 藤岡俊博……〔論文〕環境世界の彼方  
レヴィナスの「場所」の思想と人文地理学
- 石川学……〔論文〕回帰する死のために  
ジョルジュ・バタイユと精神分析
- 渡名喜庸哲……〔論文〕30年代のエマニュエル・レヴィナスにおける  
「ヒトラー主義の哲学」批判

〔第6号(2009年)〕

- 小泉順也……〔論文〕ポン＝タヴェンをめぐる記憶の場の創出  
グロアネクの宿とゴーガン没後の評価
- 土田環……〔論文〕テレビ時代の映画という神話  
アンドレ・バザンのテレビ批評と1950年代の映画
- 米田尚輝……〔研究ノート〕ル・コルビュジェと絵画の舞台
- 渡名喜庸哲……〔研究ノート〕エマニュエル・レヴィナスのメンデルスゾーン論  
レヴィナスにおける「ユダヤ性」についての一考察
- 尾玉剛士……〔クロニック〕書評『社会保障を統治する 1945年以降の  
フランス社会保障システム改革』
- 篠原学……〔クロニック〕迂回して、書物へ  
ミシェル・ビュトールに寄せて
- 澤田哲生……〔クロニック〕スタッドのある風景III  
『ローデス・アヴェイロン・フットボール80年史』によせて
- 平福晶子……〔論文〕「丸刈りにされた女たち」を巡る言説  
フランス解放時とその後の展開
- 中村督……〔論文〕『ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール』におけるヴァカ  
ンス広告の一考察(1964-1967年)
- 尾玉剛士……〔論文〕医療保険改革の日仏比較  
制度比較から改革の比較政治学へ
- 小澤京子……〔クロニック〕ファンタスムの無限鏡像  
アニエス・ジヤール著『日本のエロティックな想像力』に寄せて
- 竹本研史……〔クロニック〕ある野心家の肖像  
オランピック・リヨネとジャン＝ミシェル・オーラスの20年
- 藤岡俊博……〔研究ノート〕エマニュエル・レヴィナスにおける超越と高さ
- 石川学……〔研究ノート〕静謐なる昂揚  
ジョルジュ・バタイユとファシズム
- 渡名喜庸哲……〔クロニック〕エチエンヌ・タッサンの仕事  
現代フランス政治哲学における「コスモポリタニズム」の思想
- 篠原学……〔論文〕演劇性の発見  
ミラン・クンデラ『ジャックとその主人』と「小説」の概念
- 澤田哲生……〔論文〕メルロ＝ポンティの政治哲学再考  
階級論をめぐって

〔第7号(2011年)〕

- 角井誠……〔論文〕真実と扮装  
ジャン・ルノワールと1920年代フランス映画の演技理論
- 篠原学……〔論文〕顔・まなざし・テキスト  
ラン・クンデラにおける「読むこと」

- 横山由季子……[研究ノート]浴女と無定形の布  
ポナールの水浴の裸婦像(1920-1940)
- 松井裕美……[研究ノート]キュビズム文学と第一次世界大戦下のパリ文学界  
象徴主義とシュルレアリスムの狭間で
- 石川学……[研究ノート]自由に自由を捨ててはならない  
「パレス裁判」をめぐる
- 塚島真実……[クロニック]星を瞬いているか  
『ランボー全集』プレイヤッド第三版をめぐる
- 富成信……[論文]ボードレール『1859年のサロン』における宗教画論  
ルグロ、ゴーティエをめぐる
- 白瀬小百合……[論文]「新キリスト教」の行方  
サン＝シモンの宗教思想と後継者による継承をめぐる
- 中村督……[研究ノート]フランスにおける国家補助金制度とジャーナリズム
- 大辻都……[研究ノート]ハイチ地震と文学
- 角井誠……[クロニック]映画的創造の不純さ  
アラン・ベルガラ『不良少女モニカ』によせて
- 澤田哲生……[クロニック]スタッドのある風景IV  
マティアス・ルー『スパイクを履いたソクラテス』を読む
- 尾玉剛士……[論文]医療費抑制の比較政治経済学  
日本とフランスを事例として
- 八幡恵一……[論文]メルロ＝ポンティにおける思考と言語  
「沈黙のコギト」をめぐる
- 三枝大修……[クロニック]詩人もまた「万人によって作られる」のだとしたら  
プレイヤッド新版『ロートレアモン全集』の場合
- 富成信……[クロニック]真実らしさの不実な追及  
ジャン＝レオン・ジェローム回顧展
- 茨木博史……[研究ノート]父になれぬ息子  
ムールード・マムリ『忘れられた丘』について
- 守田貴弘……[クロニック]翻訳論としての対照言語学  
視点表現の問題
- 澤田哲生……[論文]性の脱中心化と身体を中心化  
モーリス・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』における性理論の再考察
- 渡名喜庸哲……[論文]「仏語圏ユダヤ人知識人会議」をめぐる  
現代フランスにおける「ユダヤ性」の活力と隘路
- 篠原学……[クロニック]書物の宮殿を訪ねる
- 河口丈志……[研究ノート]過程と個体  
ドゥルーズ『差異と反復』の問題圏
- 八幡恵一……[クロニック]構築という方法  
アレクサンデル・シュネル『フッサールと構築的現象学の基礎』
- 山岡利矢子……[研究ノート]真実と虚構  
ジャック・デリダのモーリス・ブランショ論『滞留』に寄せて
- 根木昭英……[論文]「実存の場所」としての文学  
J.-P. サルトルにおける文学的コミュニケーションの問題
- 守田貴弘……[論文]移動表現における様態動詞の分類

[第8号(2013年)]

- 石川学……[論文]空間から時間へ  
ジョルジュ・バタイユのファシズム論をめぐる
- 竹本研史……[論文]稀少性と余計者  
サルトルにおける「集列性」から「集団」へ
- 根木昭英……[クロニック]ジュネの読者、バタイユとサルトル  
F. ビゼ『交換＝応酬なきコミュニケーション』によせて
- 堀切克洋……[クロニック]ドキュメント的に、そして神話的に  
ジャン＝ミシェル・ブリュエール/LFKs『たった一人の中庭』をめぐる
- 松井裕美……[論文]図式と知覚の造形的実験  
ピュトー・グループによるキュビズムの人体表象生成

- 横山由季子……[論文]眼と手の記憶の交錯  
ピエール・ポナールの「傘を持つ女」連作(1894-1898年)
- 齋藤達也……[研究ノート]エルネスト・シェノーと印象派
- 富成信……[研究ノート]存在への信の詩学  
ポヌフォフによるボードレール読解から出発して
- 山岡利矢子……[研究ノート]ジャック・デリダ『アデュー  
——エマニュエル・レヴィナスへ』における「正義」について
- 堀切克洋……[論文]救済としてのカストロフ  
メーテルランクとアルトーの決定論的演劇をめぐる
- 槇野佳奈子……[論文]黎明期写真の芸術性をめぐる議論  
『ラ・リュミエール』を中心に
- 尾玉剛士……[研究ノート]サルゴジ政権の社会政策  
減税路線と福祉削減
- 澤田哲生……[クロニック]スタッドのある風景  
オードレイ・ケイゼル、マギー・ネストレ・オンタノン『女子サッカー 女性はサッカーの未来』を読む
- 上杉未央……[論文]中国における宣教師の役割  
ポール・クローデルの「中国に関する書物」と『青龍の徴の元に』をめぐる
- 学谷亮……[論文]閉鎖性からの脱却？  
極東における「詩人＝大使」ポール・クローデル

[第9号(2015年)]

- 井口俊……[論文]1863年の「スキャンダル」  
エドゥアール・マネ《草上の昼食》と落選者のサロン
- 堀切克洋……[論文]純粹イメージから感覚の交感へ  
アントナン・アルトーの映画における視覚性と聴覚性
- 中村彩……[研究ノート]ポーヴォワールとアルジェリア戦争・古い・文学  
『或る戦後』エピソードに関する覚書
- 白瀬小百合……[クロニック]出口のない夢  
『リトル・ジョゼフィーヌ』を読む
- 槇野佳奈子……[論文]フランスにおける最初の写真技術の発明  
アラゴの演説とその影響に関する考察
- 佐藤園子……[論文]南米あるいは夢の出発点  
ジュール・シュベルヴィエール『船着き場』から『パンパの男』へ
- 石川典子……[研究ノート]1920年代のマルロー  
不可知論思想の萌芽
- 桐谷慧……[研究ノート]イヴオンヌ・ピカールについて
- 上杉未央……[論文]ポール・クローデルと第一次世界大戦  
プロバガンダと『1914年聖誕祭の夜』における戦争と信仰
- 西村晶絵……[論文]「観念」という「病」  
アンドレ・ジイドの『パリュード』を通して
- 鈴木哲平……[研究ノート]ランボーを訳すベケット
- 堀切克洋……[クロニック]俳句の国際化をめぐるパラドックス  
フランスにおける俳句受容史を例として
- 白瀬小百合……[論文]産業と有用性  
アンリ・サン＝シモンに見られるJ.-B. セーの影響と思想的展開
- 平澤暢之……[論文]歩くこととしし  
小説『美しい夏』試論
- 山下雄大……[研究ノート]法に抗する制度  
ドゥルーズとサン＝ジュスト
- 宮川麻理子……[研究ノート]舞踏の「ことば」の受容  
フランスにおける大野一雄への批評記事調査
- 栗脇永翔……[論文]可傷性・吐き気・肉体嫌悪  
前期サルトルにおける身体の問題
- 石川学……[論文]無とその力  
ジャン＝ポール・サルトル「新しい神秘家」(1943年)以後の  
ジョルジュ・バタイユ